

文部省
小學指教圖入門
全

K110
238

A1
65.4



文部省

連語圖入

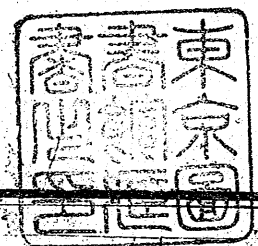
小學指教圖入門

翻刻明治十五年

小學指教圖入門

文部省

小學指教圖第一



い	は
は	に
ち	は
り	は
ぬ	は

せ	み	あ	け
す	し	さ	ふ
	忽	き	こ
	ひ	ゆ	江
	も	め	て

小
学
教
科
書

の	な	た	る
に	ら	れ	を
く	む	う	お
や	う	つ	か
ま	を	ぬ	よ

指
教
考
査
書

小學指教圖第二

サ	カ	ア
シ	キ	イ
ス	ク	ウ
セ	ケ	エ
ソ	コ	オ

マ	ハ	ナ	タ
ミ	ヒ	ニ	チ
ム	フ	又	ツ
メ	ヘ	子	テ
モ	ホ	ノ	ト

サ	タ	カ
ジ	チ	キ
ズ	ツ	ク
ゼ	テ	ゲ
ゾ	ト	ゴ

小學指教圖第三

シ	ワ	ラ	ヤ
フ	井	リ	イ
ヒ	ウ	ル	ユ
キ	エ	レ	エ
	ヲ	ロ	ヨ

指教書

バ
ビ
ブ
ベ
ボ

次清音

パ
ピ
プ
ペ
ポ

小學指教圖第三續

十	五	○
百	六	一
千	七	二
萬	八	三
億	九	四

小學指教圖第四

			
むぎ	うば	ちま	いぬ
			
うづら	つゑ	をけ	け
			
ねもと	なべ	かに	ほん

			
ひよ	まご	いび	くわ
			
せみ	ゆず	あぢ	かたて
			
すたれ	やろ	さる	ふね

			
ぶたう	かり	らっぱ	ます
			
かだい	さし	すけん	ゆふがほ
			
かだい	かたう	あむむ	のぶ

小學指教圖第五

			
ほづき	いへ	たひ	びは
			
たほかみ	はへ	こひ	くは
			
あさかほ	かへる	たひ	うちは

			
ひやう しぎ	きやう だい	しやう	きん ぎ
			
ひや うぶ	しや うぎ	すわ くわ	ちよ く
			
りや うがけ	ちや うちん	くわ	しよ うだい

			
やく く	たふ	たう ん	ば じ
			
やく く	ちふ く	ゆう が	や じ
			
ちん ぐ	て く	あ い	しよ う

小學指教圖第六
 乘算呼聲 九九合數

一一一	一一二	一一三	一一四	一一五
一六六	一七七	一八八	一九九	二三四
二三六	二四八	二五十二	二六十三	二七十四
二八十六	二九十八	三三九	三四十二	三五十五

三三八	三七廿二	三八廿四	三九廿七	四四十六
四五廿	四六廿四	四七廿八	四八卅二	四九卅六
五五卅五	五六卅卅	五七卅五	五八卅十	五九卅五
六六卅六	六七卅三	六八卅八	六九卅四	七四卅九
七五卅六	七六卅三	七八卅四	七九卅七	八四卅九

小學指教圖第七

加算並二
減算呼聲

一引九殘	二引八殘	三引七殘	四引六殘	五引五殘	六引四殘	七引三殘	八引二殘	九引一殘
一足十二	二足十三	三足十四	四足十五	五足十六	六足十七	七足十八	八足十九	九足二十

小學指教圖第八

除算呼聲上一九歸法

一進下三	二進下四	三進下五	四進下六	五進下七	六進下八	七進下九	八進下十	九進下十一
一添作二	二添作三	三添作四	四添作五	五添作六	六添作七	七添作八	八添作九	九添作十

六進下	七下加三	七下加六	七下加九	七下加十二	七下加十五
七進下	六下加四	六下加七	六下加十	六下加十三	六下加十六
八進下	九下加一	九下加四	九下加七	九下加十	九下加十三
九進下	五下加五	五下加八	五下加十一	五下加十四	五下加十七

小學指教圖第九

除算呼聲下撞除法

見一	無頭作九	一歸	一倍
見二	無頭作九	二歸	一倍二
見三	無頭作九	三歸	一倍三
見四	無頭作九	四歸	一倍四

見五無頭作九五	歸一倍五
見六無頭作九六	歸一倍六
見七無頭作九七	歸一倍七
見八無頭作九八	歸一倍八
見九無頭作九九	歸一倍九

第一連語圖

父。母。叔父。叔母。私。男。女。あなた
 彼れ。彼人。此れ。其れ。此。其。誰。何。茲に
 何處に。其處に。どのやうな。かやうな
 彼人。何を致してをります。彼れ。今かやう
 な花を見てをります。彼れの、叔父も叔母も
 一處に。見てをります。此れ。何の花で
 あります。か。此れ。梅の花であります
 叔父と。叔母の、兄弟をいひ、叔母と。
 父母の、姉妹を、いふあり

第二連語圖

本手習 算盤 學校 今日 昨日
 私を 本を 讀み、 志まひまゐりた
 これら 手習を 致し、まゐやう
 あつた、本と 手習を、誰に、
 習ひふさがるか。私を、本を、父も、習ひ、
 手習を、母に、習ひませ。あの人を、
 いづら 學校へまかりまゐりた。彼
 れを、昨日より、まゐりまゐりて、今日を、
 算盤を、習ひまゐりた。

第三連語圖

どのやうな、物が、食物、飲物、なりませか。
 穀物、野菜、菓物、魚肉、鳥肉、獸肉が、食
 物に、ありませ。水、乳汁、茶、いろく、の、酒
 が、飲物、なりませ。食物のうち、何が、第一
 養ひに、ありませ。鳥肉と、獸肉が、第一
 養ひ、なりませ。穀物と、魚肉を、少く、養
 ひ、ありませ。飲物のうちにて、何が、第一、養
 ひに、ありませ。乳汁と、水が、第一、養ひ、
 ありませ。茶と、酒を、多分の、養ひに、なりませぬ。

第四連語圖

春。夏。秋。冬。風。雨。去年。今年。明年。東。西。南。北。今年の春を、去年より暖く、ありませぬ。昨秋も、強き雨、降りました。日月を、東より出で、西より入ります。夏を、南風多くて、冬を、北風多く、吹きます。

絹。木綿。麻。毛織物。着物。今冬、冬にふるると、暖き着物を着て、夏を薄き着物を、着ませう。秋も、着る品へ、何うら、出来ませう。水綿を、綿より絹を、繭より、造り毛織物を、木綿に、羊の毛を用ひませぬ。

第五連語圖

あなたも、病氣の、起らぬ爲に、身のうちを、清くおさるか、身のうちを、毎日清く洗ひ、肌着の類を、度々洗ひませぬ。又住居する、部屋へ、新しき、空氣を、通せませぬ。私を養生の爲に、菓物なども、多く、食ませぬ。又二時の間、又三時の間、替古致しませぬ。一時の間を、遊歩致しませぬ。

第六連語圖

彼女子を、針仕事を能く致し、また、
彼れを、針仕事を上手に致し、又
讀み書きも、下手でもありませぬ、彼れを、
其れを誰に、習ひましたか、彼れを、針仕
事も、讀み書きも、彼れの母に、習ひました
此小兒を、算盤や、本を、覚えませう、此小兒
を、どちらにも、能く覚えませ、いつから、其れを
始めました、彼れを、先月より、本を、始めま
して、今月より、算盤を、始めました

第七連語圖

老幼、夫妻、親子、賢き、愚う、貴き、賤き
優れる、劣れる、彼れを、賤き男あはれども、賢き
智慧う、ありませ、此子を、劣れるもので、有り
ませぬ、親にも、優れる、少年でありませ、幼くして
讀み書きを、精出して、學びませと、老いて、貴き人に、
おられませ、學文を、怠りませと、貴き人に、おられませ
ぬ、貴き人にも、學文を、致さぬを、賤き人に、
おられませ、愚うある、人にも、學文を、致しませ
ぬと、賢き人に、ありませ

第八連語圖

天秤の目に、五つあり十毛を一厘といひ、
 十厘を一分といひ、十分を一匁といひ、千匁を
 一貫目といふあり
 度の名に、六つあり。十毛を、一厘といひ、十厘を
 一分といひ、十分を、一寸といひ、十寸を一尺
 といひ、十尺を一丈といふあり。
 斛の名に、六つあり。十才を、一勺といひ、十勺を
 一合といひ、十合を一升といひ、十升を一斗と
 いひ、十斗を一石といふあり

明治十五年九月廿七日翻刻御届

大阪府平民

定價五錢

出版人

山口恒七

東尾北久太郎町四丁目
五十三番地

山口縣學校用書籍賣捌所

防州柳井書林

留島藤十郎